

「統計改革に向けた課題」

平成29年4月11日

美添泰人

今回の統計改革において、最も重要な課題は人的資源の確保であることは、これまでも繰り返し指摘してきました。

E B P Mにおいては、基礎となる証拠、すなわち的確な統計データの収集と管理の基盤の上に、それを適切に加工し分析する能力が求められます。いわゆるデータサイエンスを含めて、調査の設計、実施、加工集計、分析まで、現代的な統計の分野で求められる能力は極めて高度なものとなります。

政府統計の正確性を高めて、効果的なE B P Mを実施するためには、過去20年ほどの間に失われた人的資源を数の上で回復するだけでは不十分です。採用から、教育、学会や国際機関との交流、組織内での活動の場を確保するなど、具体的な措置が求められます。

統計という用語に対しては、さまざまな理解があります。特に、20年以上も前の時代における狭い意味の統計作成者という理解では、現代的な統計を作成することは不可能です。

ビッグデータの活用は重要な課題ですが、そのためには、国の統計組織においてデータの質を評価し、有効に活用するための人材が追加的に必要となります。ビッグデータの活用は、短期的には人的資源の節約ではなく、充実を意味しますが、積極的に取り組むべき課題です。このような課題に対して、現実的で実行可能な対応策は、できる範囲で人的作業をコンピュータで置き換えながら、創造的な能力を必要とする分野に必要な人材を配置することにつきます。

以上